総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- ・普通教育、専門教育を通して、確かな学力を育み、未来を創造する力を持った人材を育成する学校
・個に応じた学習を通し、高い専門性と実践力を培い、社会において生きる力を備えた人材を育成する学校
・地域との連携、交流を通して、地域愛・協働する力を育み、地域のニーズに応え郷土の発展に貢献できる人材を育成する学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

地域の課題を探究していく中で、人とつながって生きる意味を理解し、自己の将来を切り拓き、将来地域社会に貢献しようとする意欲をもつことができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。
(1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付けるとともに、地域の特徴や良さに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。
(2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことの根拠を明らかにしてまとめ、表現する力を身に付ける。
(3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

- (1) 地域の特徴(風土、産業、文化、伝統等)を理解している。地域の特徴から生まれる良さやそれらを支える人々の努力や工夫に気付くことができる。
(2) 課題の解決に必要な情報を、目的に応じた手法で適切に収集している。収集した情報を整理し、比較したり推測したりして分析している。
(3) 自己の在り方・生き方を見つめ、社会の形成者として自分にできることを考え、主体的に地域社会に関わろうとしている。

生徒の実態

豊かな自然に恵まれ、野菜づくりなどの農業が盛んな地域で、明るく素直で純朴な生徒が多い。学習面では、与えられた課題には真面目に取り組むが、自ら主体的に学習に取り組む力に課題が残る。農業が盛んな一方、工業団地に隣接し、地元の企業に就職する生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・様々な事象を調べたり、得られた情報をまとめたりすることに困難がある場合は、必要な事象や情報を選択して整理できるように、着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示する。
・学習の振り返りが難しい場合には、学習してきた場面を想起しやすいように、学習してきた内容を文章やイラスト等で視覚的に示すなどして配慮する。

目指す生徒の姿

それぞれが持つ個性・能力を伸ばし、豊かな未来を切り拓いていくことのできる生徒。広い視野と柔軟な思考力、豊かな感性を養い、新たな価値を創造できる生徒。個人や社会の多様性を尊重し、郷土愛と思いやりを持ち、それぞれの強みを生かして、地域社会に貢献できる生徒。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

探究課題・・・地域や学校の特色に応じた課題

- (1) 知識・技能
地域社会の発展や伝統に関わる探究的な学習の過程において、課題解決のために必要不可欠な知識や技能を体得するとともに、地域の現状や特色を発見し、それらが多くの人々の関わりによって支えられていることに気付くことができる力を育てる。
(2) 思考力・判断力・表現力
地域の中から課題を見だし、その解決に向けて広い視野と柔軟な思考力を身に付けるとともに、考えたことの根拠を明確化してまとめたり、新たな価値を創造して表現したりする力を育てる。
(3) 学びに向かう力、人間性
地域について探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、個人や社会の多様性を尊重し、郷土愛と思いやりを持ち、それぞれの強みを生かして、地域社会に貢献しようとする態度を育てる。

学習活動、指導方法等

計画的・系統的なキャリア教育の推進
自己マネジメント力の育成

- ① 課題の設定
生徒の実態把握を生かした主体的な学びにつながる導入として、見学・体験活動を充実させる。(講演会、インターンシップ、上級学校・職場見学会、修学旅行等)
② 情報の収集
見学・体験活動を通じた感覚的な情報収集や、数値化された客観的な情報の収集を行うようにする。(講演会、インターンシップ、セミナー、実習、上級学校・職場見学会、修学旅行等)
ICTを活用し、情報の収集や情報の蓄積を行う。
③ 情報の整理・分析
グラフ、マップ、図などを利用し、相手や目的に応じた多様な方法の選択を行えるようにする。
④ まとめ・表現
制作、ものづくり、報告会等を通して、実社会を考慮し、生徒自身が学びを振り返る。新たな課題へとつながるようにこれまでの探究の過程で使用したワークシートや写真などを集積し、学びのポートフォリオを作成する。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

総合的な探究の時間担当者・・・授業に関わる企画・立案・総括を行う。学年や授業担当者と意見交換を行い授業や活動内容の改善に取り組んでいる。
授業担当者での会議(毎週月曜)・・・定期的に会議を実施し、振り返りを通じて指導方法や評価観点、授業内容等の検討を行う。また進捗状況について情報を交換する。
インターンシップとの連携・・・地域企業との連携(50社程度)を図る。
企業や上級学校との連携・・・見学会の実施に向けて、企業や大学・専門学校、農業大学校等との連携を図る。